

# 福 井 県

---

～いちほまれを核とした福井県産米の産地強化戦略  
(兼 第4次いちほまれブランド戦略) 案～  
に関する県民パブリックコメント意見募集の結果

令和8年3月30日  
福井県農林水産部福井米戦略課

「いちほまれを核とした福井県産米の産地強化戦略(兼 第4次いちほまれブランド戦略)案」について、県民の皆様から貴重なご意見をいただき、厚くお礼を申し上げます。提出されたご意見の概要等を、下記のとおり公表します。

- 1 募集期間  
令和8年2月20日(金)～3月6日(金)
- 2 意見件数(提出者)  
15件(6名)
- 3 提出されたご意見の概要および検討の考え方  
別紙のとおり
- 4 問い合わせ先  
福井県農林水産部福井米戦略課市場戦略グループ  
TEL: 0776-20-0425  
FAX: 0776-20-0649  
メール: fukuimai@pref.fukui.lg.jp

「いちほまれを核とした福井県産米の産地強化戦略（兼 第4次いちほまれブランド戦略）案」に関する県民パブリックコメント意見募集結果と検討の考え方

1 いちほまれ（生産戦略）

意見の概要		ご意見に対する考え方
1	令和7年産は、猛暑に関わらず、品質を確保できたと聞いたため、さらに頑張してほしい。	今後の生産拡大に向けて、いちほまれの高温に強いという品種特性を活かすとともに、スマート技術を用いてよりきめ細やかな栽培技術情報の提供等を行いながら、生産者や関係機関とともに食味・品質を高い水準で維持できるよう努めていきます。
2	いちほまれの特A連続獲得は、品種としての食味・品質を確保しやすい実力の証明につながると思うので、今後生産拡大するうえでも、その実力を活かせるよう生産者や指導者の頑張りに期待したい。	
3	今後さらに大規模農家へ農地集積が進むことを考えると、大規模乾燥施設は稼働が減り続けることが予想される。受託乾燥を行う大規模農家に施設整備の助成を行うとともに、小規模農家とのマッチングを行う方が良いのではないかと。	長期的には主食用米の消費量は減少傾向であり、生産者の減少と担い手への農地集積が進む中、こうした需要や生産構造の変化に対応した大規模施設の再編集約を支援し、地域農業の振興につなげていきます。

2 いちほまれ（販売戦略）

意見の概要		ご意見に対する考え方
4	いちほまれはおいしいため生産拡大には賛成だが、消費者にとっては価格が安い方がありがたい。	いちほまれを福井県産米のブランドリーダーとして認知度を高め、いちほまれを核として福井県産米全体の評価を高めていきます。生産者が安心して米づくりを行うには、費用を賄える価格で安定していることが重要である一方で、消費者の理解も大切であり、価格に見合ったブランド米として認知されるよう、引き続き品質の向上に努めていきます。
5	高価格帯の維持を狙うのであれば、生産量を減らすべきではないか。7年産は、県内では特売でコシヒカリ以下の価格で、県外では他県の一般的な銘柄と同等以下の価格で販売されている現状である。	戦略策定にあたって専門家からは、「量を確保することが重要。量がないと消えてしまう」「生産量を増やすと価格が低下するという議論の前の段階」との意見を伺っています。ブランド米として高価格帯を維持しながら認知度を高めるためには、主要都市圏の大手量販店で定番商品として定着できる生産量を確保することが重要であると考えています。

### 3 いちほまれ（PR戦略）

意見の概要		ご意見に対する考え方
6	人気があり好感度の高いタイムマシーン3号がいちほまれをPRしていることは良いと思う。	タイムマシーン3号のお二方には、令和3年度から「いちほまれシンボルサポーターズ」として、YouTubeチャンネルでいちほまれ企画の配信などの応援を続けていただいています。
7	県民にとってはブランドイメージが定着した一方で、高級なお米というイメージが払拭されていない。県民が日常的に食べるようになり来県者に必ず紹介したくなるような誰からも愛される魅力的なお米となることを期待したい。	いちほまれを使用する県内飲食店の認証を継続してPRするとともに、県内でのイベント等の充実や親しみやすい米袋キャラクターの露出機会を増やし、県民の愛着心の醸成を図っていきます。

### 4 需要にあわせた品種構成

意見の概要		ご意見に対する考え方
8	シャインパールについて、加工用や業務用向けの品種としてはにじのきらめきの方が生産性や高温耐性が優れていると感じる。名称も米の名前らしくないため認知されにくい。また、あきさかりは、古米になっても食味が変わらず、実需者からは重宝されているため、さまざまなニーズに対応するためには、品種として大切にしたいと思う。	シャインパールについては、これまで輸出専用米として輸出先で認知されやすい名称を付け、令和4年から本格的に輸出を行っています。多収であること、早生品種に続けて収穫できるため作業の分散も可能となることから、生産者にとって取り組みやすい品種であると考えており、加工用や業務用等での需要も開拓していきます。なお、にじのきらめきについても最近生産が拡大していると認識しており、このようなシャインパール以外の多収米についても需要に応じた生産を推進していきます。
9	コシヒカリの品種構成の比率が半分になる見込みであり、高温に弱く品質が保てないため仕方がないのかもしれないが、全国的な認知度は圧倒的であるため減ることは心配である。	戦略の策定にあたって専門家からは、本県産のコシヒカリは関西から根強い需要があると伺っており、いちほまれなど高温に強い品種への切り替えを進めながらも、県内向けも含め固定需要に対応するための生産量を確保していきたいと考えています。

## 5 高温に強い品種構成

意見の概要		ご意見に対する考え方
10	早生新品種について、外観品質・食味が良いことは確かであるが、ハナエチゼンの魅力である硬質米であることと北陸圏最速の収穫期という特徴が引き継がれていないのではないかと。ハナエチゼンの消費者が離れてしまうのではないかと。	近年、早生品種の成熟期は非常に気温が高いため、より高温に強く、品質の安定している早生新品種への切り替えを目指しています。なお、切り替えにあたっては、引き続き実需者のご意見や評価をいただくこととしています。
11	ハナエチゼンは中国・四国地方でも生産されており、福井県産ハナエチゼンの需要先が他県産ハナエチゼンに向かうことが懸念される。	
12	いちほまれ、早生新品種など福井の高温耐性品種の取組みは全国的先駆けであるが、報道等での掲載が少ないと感じる。毎年激化する高温の気象条件の中でも高品質な米の生産を維持できる産地であることを実需者や消費者に多方面からアピールすることが大切だと思う。	いちほまれや早生新品種など高温耐性品種の認知度向上とともに、福井県が暑さに強い品種の普及拡大を進めていることや猛暑の中でも安定した品質の米を供給できる産地であることのPRについても、どういった方法が有効かも含め検討していきます。

## 6 品種の方向性

意見の概要		ご意見に対する考え方
13	令和12年に向けて、「その他」を4ポイント拡大するとしているが、「その他」とは具体的には何か。	近年、県内で栽培される米の品種は増加しており、今後も担い手を中心に外食産業や卸業者など実需者との結びつきの中で、多様な品種の栽培面積が拡大することを想定しています。
14	近年、多収米といわれている米はどれも連作障害が出る傾向にある。多収米を拡大するのであれば、収量・品質の低下を招き産地としての評価が下がる可能性があるため、連作障害が起きないように時間をかけて試験をしながら進めてほしい。	多収米に連作障害が生じる傾向があるというデータはありませんが、近年は高温化による影響のため収量が低下しやすくなっています。多収米の推進にあたっては、より高温に強い品種の選定、あわせて適正な施肥、生育に応じた追肥などの栽培技術を進め、収量の低下を招かないよう対応していきます。
15	新品種を開発するのであれば、古米になっても食味が低下しない長期保存がきく米を開発してほしい。	今回新たに開発した早生品種は、高温に強く、品質が安定している特徴を持っています。引き続き、収量性や品質に優れた生産者所得の確保につながり消費者にも選ばれる品種の育成に努めていきます。